

令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 [調査結果の概要]

令和2年10月
長野県教育委員会事務局心の支援課

調査の趣旨

児童生徒の問題行動・不登校等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、その実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応、また、不登校児童生徒への適切な支援につなげていくもの。

調査の主体 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課

調査項目 いじめ 暴力行為 不登校（長期欠席） 高等学校中途退学 等

調査期間 令和元年度間

調査対象 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

長野県の結果【概要】

いじめの認知件数は10,198件（992件増）

- ・学校種別では、全国と同様に小学校の認知件数が大幅に増加した。
- ・いじめの解消済みの割合は、全国より高くなっている。

暴力行為の発生件数は1,067件（257件増）

- ・小学校における暴力行為が大幅に増加、また、内容別では生徒間暴力が最も多く、いずれも全国と同様の傾向となっている。
- ・増加の背景に、いじめの積極的な認知による暴力行為の把握や暴力行為を繰り返す児童生徒がいることが考えられる。

小・中学校における不登校児童生徒数は3,551人（322人増） 高等学校では726人（66人増）

- ・不登校児童生徒数は、7年連続で増加しており、全国と同様に過去最多となっている。
- ・増加の背景として、休養の必要性等を明示した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の趣旨の浸透の側面が考えられる。

高等学校中途退学者数は611人（5人減）

- ・中途退学者数は減少し、中途退学者の割合は、前年度と同じとなった。
- ・事由別では、「進路変更」「学校生活・学業不適応」が主な理由となっている。